

◆第 19 回知の創造研究部会研究会の報告（2012 年 5 月 11 日、大手町ビル会議室）

第 19 回知の創造研究部会では、5 月 11 日、研究成果の発表会とまとめの討論を大手町ビル会議室で行いました。今回は 3 年間に及ぶ研究プロジェクト「知の創造と経営革新」の研究成果の中から 5 事例の発表がありました。中小規模の企業事例として安部さん（エリア社の知の創造と経営革新）、八代さん（日本リファン社の知の創造）、中堅・大規模の企業事例として新藤さん、大島さん、五十嵐さん（富士通ラーニングメディアにおける知の創造活動）、荒木さん（NEC グループの SWQC から EGM へ）、瀬川さん（日本 HP の知識創造マネジメントと知の国際移転）。

短い凝縮された時間内にそれぞれの事例研究の要点と今後の課題について発表して頂き、また参加者 21 名を得て活発な質疑が行われました。まとめの討論では、それぞれの事例から導出された知の創造を促進するイネーブラー要因と課題点について、知の創造を促進するマネジメントモデルで対比しながらその共通点と規模の差異等に起因する経営理念・ビジョンなどの情報共有システムやコミュニケーションの問題等について検討しました。

◆第 20 回知の創造研究部会研究会の報告（2012 年 7 月 28 日 エーザイ会議室）

第 20 回知の創造研究会は 7 月 28 日にエーザイ会議室で盛会に行われました。今回は、全部で 5 編の報告があり、活発な質疑があり、土曜日の午後 1 時過ぎから 6 時まで延長となりました。力作の発表をされた報告者の皆さんと会場の準備をして頂きましたエーザイ理事の高山さんにも感謝をいたし

ます。当初、30名を超す参加申込者があり、会場の席の確保を心配し、当日は猛暑で欠席の方もおられました。一般の参加者も数名交えて、活発な質疑が展開されました。

最初の報告では、横澤公道会員（東京大学特任助教）から「改善能力の海外移転」に関する最新の研究成果（オランダの大学院の博士論文の要旨）を発表して頂きました。長年に及ぶ実証的な研究成果として、オランダにおける日系企業15社の実態調査から理論的にまとめて実務的、理論的な含意を提示されました。

第2部では、本研究部会の研究プロジェクトの研究成果の一端を次の5編の発表と質疑で行いました。

【創造的な経営文化の醸成と知の創造について】

事例1 花王における知の創造と経営革新（矢澤洋一・八代英美会員）

事例2 エーザイの経営理念と知の創造（高山千弘 会員）

事例3 オムロンの企業理念に基づく知の創造（植木英雄・佐脇英志会員）

【学習するダイナミックな場の展開について】

事例4 トヨタウェイの組織浸透と学習する場の活用（植木真理子会員）

【バリュー・エンジニアリング活動における知の創造について】

事例5 日立建機とフジタのVE活動事例とKMの融合（児玉啓会員）

第3部では「知の創造の実践と経営革新について」総括討論を行い、3年間に及ぶ研究プロジェクトの総括をしました。終了後は、懇親会を行い大変盛り上がった雰囲気の中で参加者の知的交流を深めました。

本研究部会も発足から4年が経過しました。今年は、新たな研究課題を共有して、第2フェーズを始める年になります。知の創造と変革の実現に向けた課題は、現代の日本と世界にとって、より重要性を増しております。昨年の東日本大震災以来、地域コミュニティとの連携と共生のマインドが鼓舞され、激動する地球環境と世界経済社会のパラダイムシフトの過渡期を迎えております。そこで、あらゆる組織体と個人はクリーエーティブマインドを醸成して、新しい持続的な発展を目指すパラダイムの構築に向けて挑戦することが肝要となります。本研究部会の研究活動や成果がこのような感動的な社会を実現する「知の創造と変革」に寄与出来ることを願っております。

◆ **第21回知の創造研究部会研究会の報告** (2012年10月19日、大手町ビル会議室)

日時：10月19日(金曜) 午後6:10-8:30分

場所：大手町ビル5階533号室(東京経済大学葵友会サテライトオフィス)

テーマ：感動体験による変革のソリューション手法と成功事例

講師：、(株)日立製作所情報・通信システム社 マート情報システム本部長 渡辺 薫 氏

今回は、(株)日立製作所情報・通信システム社 スマート情報システム統括本部長の渡辺 薫 氏をゲスト講師に招聘して、同社が開発した「協創的」アプローチやエスノグラフィー現場調査を交えた感動体験による変革のソリューション手法や事例について詳しく講演して頂きました。

また、この「感動」のソリューション手法を適用した様々な企業やコミュニティにおける成功事例に関して、ワークショップの状況などをDVD、PCでのデモ映像を交えて説明して頂きました。その後で、参加者の皆さんとの自由討論や意見交換などの場を共有して頂きました。

今日企業組織や社会の変革、およびその変革を主導するリーダーシップがあらゆるところで急務とされていますが、その実現は様々な壁の障害によって、これまで極めて困難とされてきました。

参加者の皆さんは、目から鱗が落ちる感動体験とマインドチェンジにより、実現困難と言われている「変革と創造の実践知」を共感し、学ぶことが出来ました。

◆第22回知の創造研究部会研究会の報告（2012年12月7日、大手町ビル会議室）

12月7日に開催された第22回研究会では、第1報告で安部博文会員（電気通信大学）により、「SECI応用モデルによる知の創造と自己変革の促進」のテーマの下で、現在推進中の2事例での新しい人材育成の取り組みについて発表がありました。

また、第2報告では、林 弘夫・梶村 茉莉子両会員（日本アイ・ビー・エム）から今年度のテーマに沿ったSNSの普及などについての興味深い発表がありました。

師走の多忙期にも関わらず、関西からの複数の参加者や外国人を含む21名の参加者があり、両報告共に活発な質疑討論が展開され、創造的な知の気付きと知見を共有し、協創することが出来ました。（終了後の忘年会では17名が参加され、親睦を深めることが出来ました。）

二つの貴重な発表者による報告概要、および報告1と2に対する薄上二郎、久米克彦両会員、および荒木聖史会員による感想・コメント集と写真集は以下のURLでご覧下さい。

URL : <http://www.kmsj.org/archive/20121207report.pdf>

◆第23回知の創造研究部会研究会（2013年4月19日大手町ビル会議室）

第23回研究会を下記の要領で行ないました。

今回は、専修大学の小澤一郎先生からビジネスモデルに関する最新の研究成果について事例を交えて発表をして頂きました。

また、コメンテータは金沢工業大学の加藤鴻介先生にして頂きました。

今回は、発表に1時間、コメント10分程度に引き続き参加者の皆さんとの質疑討論の時間も1時間とり、ビジネスモデル・イノベーションについて議論を深めました。

【研究会の要領】

日時：4月19日（金曜）午後6:10-8:30分

場所：大手町ビル5階533号室（東京経済大学サテライトオフィス）

テーマ：「プロダクトとプロセスからビジネスモデルへ」

発表者：小澤一郎 会員（専修大学 経営学部教授）

コメンテータ：加藤鴻介会員（金沢工業大学 情報フロンティア学部教授）

司会：植木英雄（東京経済大学 経営学部教授）

（参加者24名）